



①喜多川歌麿《料理をする母娘》 18世紀 神奈川県立歴史博物館 前期展示

女・おんな・オンナ

～浮世絵にみる女のくらし

Life of Japanese Women in Ukiyo-e

2019年
4月6日(土)～5月26日(日)

※会期中、展示替えがあります

【展示期間】

前期:4月6日(土)～5月1日(水・祝)

後期:5月3日(金・祝)～26日(日)

A期:4月6日(土)～21日(日)

B期:4月24日(水)～5月9日(木)

C期:5月10日(金)～26日(日)

***本展覧会の出陳作品には、18歳未満の方(高校生を含む)がご覧になれない作品が一部含まれます。**

◆展覧会概要

浮世絵に描かれた女性というと、まず「美人画」を思い浮かべるのではないのでしょうか。確かに、江戸時代、女性は鑑賞され、美しく描かれる対象でした。しかし、そうした彼女たちにも人生があり、生活がありました。この展覧会では、江戸時代に生きた女性たちの「くらし」の様相を、描かれたもの、記録されたものなどから探ります。公家・武家・農民・町人・商人・遊女など、多様な階層の女性たち。彼女たちが何を身にまとい、働き、学び、楽しみ、どのように家族をつくったのか。本展では10のテーマを設けて、美人画、着物、化粧道具、春画、教訓書、外国人の記録などから紹介します。

◇ 展覧会構成

第1章

階層—身分とくらし

近世期の社会は徹底した身分制度によって人々を区分しました。そして、各身分によって、また時代や地域によっても生活や風俗の様相は大きく異なりました。



②懐月堂安度《立美人図》18世紀
(公財)摘水軒記念文化振興財団
後期展示

第3章

観られる女—愛でる

遊女や芸者、評判の町娘など世間で注目を集めた女性たちは、いずれも“観られる”存在として江戸の人々に愛され、浮世絵の恰好の画題になりました。

第5章

化粧—よそおう

身だしなみを整えることが庶民にまで広まったのは江戸時代のことで、年齢や身分、職業によって細かな制約が存在したため、髪型、化粧、装身具をみると、女性の身分や年齢もおおよそ判別することができます。



④歌川広重(初代)・歌川豊国(三代)《双筆五十三次 品川》
1854年 神奈川県立歴史博物館 後期展示

第7章

労働—はたらく

江戸時代の女性の労働は、第一に家事や家内管理といった「家内労働」、第二に農作業や店の手伝いなど「家業」、第三に子守や乳母、飯炊きなどの奉公人や、遊郭や岡場で働く遊女のような「雇用労働」の3つに大別できます。



⑤溪斎英泉《新板娘庭訓出世雙六》19世紀
東京都江戸東京博物館

第2章

芸事—たしなむ

江戸の富裕な町人や名主の娘たちは良縁のため、武家屋敷に女中奉公に出るため、幼少期より必須教養として琴、三味線、舞踊などの稽古に取り組みました。また、吉原の遊女も書、茶、香、和歌、琴、花、尺八、俳諧、三味線、碁、双六などの芸事の習得を通じて、接客に必要な教養を身に付けました。

第4章

着物—まとう

江戸時代には、「小袖」と呼ばれる現在の着物の原形が着用されました。浮世絵には、衣服に関わる原料生産から注文、流通、着用に至るまでが脚色も含めて数多く描かれています。



③歌川豊国(三代)《江戸名所百人美女 尾張町》
1858年 東京都江戸東京博物館
前期展示

第6章 娯楽—あそぶ

春は花見、夏は花火、秋は月見、冬は雪見と季節ごとの娯楽のほか、七夕や雛祭りといった節句の祝い、さらには大人気であった歌舞伎見物など、江戸時代の女性たちの娯楽は多彩なものでした。

第8章

結婚・出産・子育て—家族をつくる

近世期における女性の人生にとって嫁ぎ、子をなし、家を守ることは最重要課題でした。浮世絵には子育てをする母親の姿がしばしば描かれます。



⑥歌川豊国(三代)《江戸名所百人美女 溜いけ》
1858年 公文教育研究会 後期展示

第9章

教育—まなぶ

江戸期を通じて女性向けの充実した啓蒙書が多数出版されました。道徳的教訓が説かれる本文のほかに、手紙の文例、家事や諸芸などの実用情報、故事・古典の教養が掲載され、女性の暮らしを助けるとともに知的欲求にも応えました。



⑦喜多川歌麿《教訓親の目鑑 理口者》19世紀
東京都江戸東京博物館 前期展示

第10章

色恋—たのしむ

浮世絵版画が誕生すると、色恋を描いた春画がたくさん制作されました。春画に表現される女性たちは男性に貞淑に従うばかりではなく、相手の男性と等しく性を楽しみ、おおらかで開放的な存在として描かれる例が多かったのです。

18歳未満の方(高校生を含む)は、本章の出陳作品をご覧になれません。



⑧喜多川歌麿《歌まくら》
(部分) 1788年 浦上満氏
B期展示

◇会期中イベント

◎特別講演会

「錦絵に描かれた女たち、描かれなかった女たち」

講師：石上阿希 氏（本展監修者・国際日本文化研究センター 特任助教）

4月14日（日）午後2時～ 地下2階ホール

*無料（要入館料） *各回定員80名

*当日午後1時30分から整理券を配布します



北海 翼

◎和妻～日本の伝統手品

出演：北海 翼（手品師）

5月11日（土） 午後1時～／午後3時～

各回約30分 地下2階ホール

*無料（要入館料） *各回定員80名（定員になり次第締切）

*事前予約の必要はありません

◎ワークショップ「紋切りあそび」

折りたたんだ色紙を切り抜いて、花や家紋などのいろいろな文様をつくります

4月28日（日） 午前11時～午後3時 地下2階ホール

*無料（要入館料） *自由参加 *材料がなくなり次第終了 *作業時間：約20分

◎館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を館員がご案内します

4月12日（金）・19日（金）・26日（金）

5月3日（金・祝）・10日（金）・17日（金）・24日（金）

各日午後6時～ 約30分

*無料（要入館料） *各回定員20名

*事前予約の必要はありません

◎学芸員によるギャラリートーク

4月20日（土）

5月12日（日）・17日（金）

各日午後2時～ 約30分

*無料（要入館料）

*事前予約の必要はありません

◇開催概要

展覧会名	女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし Life of Japanese Women in Ukiyo-e
会期	2019年4月6日(土)～5月26日(日) ※会期中、展示替えがあります
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
入館料	一般1000(800)円、大学生800(640)円、高校生・60歳以上500(400)円 小中学生100(80)円 *()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝休日は小中学生無料 *毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料 *本展覧会の出陳作品には、18歳未満の方(高校生を含む)がご覧になれない作品が一部含まれます。
休館日	月曜日(ただし、4月29日、5月6日は開館)、4月23日(火)、5月2日(木・休)、7日(火) *臨時休館日にご注意ください
主催	渋谷区立松濤美術館
監修	石上阿希(国際日本文化研究センター 特任助教)
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 HP: https://shoto-museum.jp/

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
 - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません。



◇次回展のご案内

「華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化」
2019年6月8日(土)～7月28日(日)

報道関係のお問い合わせ

広報担当 西・吉井(info@shoto-museum.jp)

展覧会担当: 清水(shimizu@shoto-museum.jp)
平塚(hiratsuka@shoto-museum.jp)

電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。